

目次	編集方針	会社概要	トップメッセージ	方針・マネジメント	カーボンニュートラル	<b>サーキュラーエコノミー</b>	ウォーターニュートラル	生物多様性	化学物質管理	サプライチェーン	エンゲージメント	データ集・第三者検証
----	------	------	----------	-----------	------------	--------------------	-------------	-------	--------	----------	----------	------------

# サーキュラーエコノミー

## 考え方・方針

サステナブルな社会の実現と、企業の持続的な成長の両立には、環境に負荷をかけずに成長するサーキュラーエコノミー型の事業モデルへの転換が世界的に求められています。大塚グループでは、「化石資源由来原料の使用」と、「自然への廃棄物の排出」をゼロにすべき環境負荷と認識し、化石資源由来原料の使用ゼロおよびゼロウェイスト\*1をビジョンとして活動しています。また、バリューチェーン全体で資源効率を高め、生物資源を含むすべての資源との持続可能な共生関係を構築していきます。

\*1 自然への廃棄物の排出(単純焼却・埋立)をゼロにし、すべての資源を有効利用する考え方

## 目標



サーキュラーエコノミー

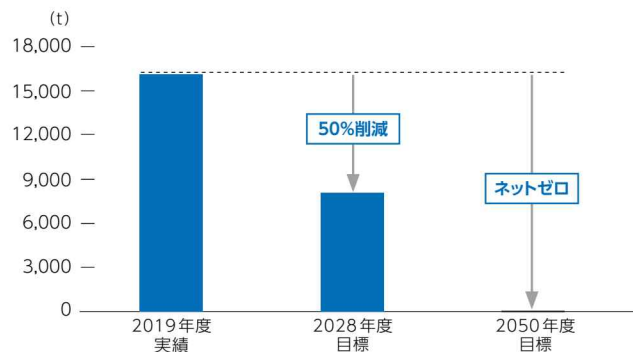
目標

- ・2028年目標:廃棄物の単純焼却と埋立を2019年比50%削減
- ・2030年目標:PETボトルにおけるリサイクル原料および植物由来原料の使用割合100%

	2019年度実績	2022年度実績	2019年度比
廃棄物排出量*	100,100t	92,900t	-7.2%
単純焼却・埋立量	18,500t	18,000t	-2.7%

\* データの見直しにより、2019年の廃棄物排出量の数値を改定。

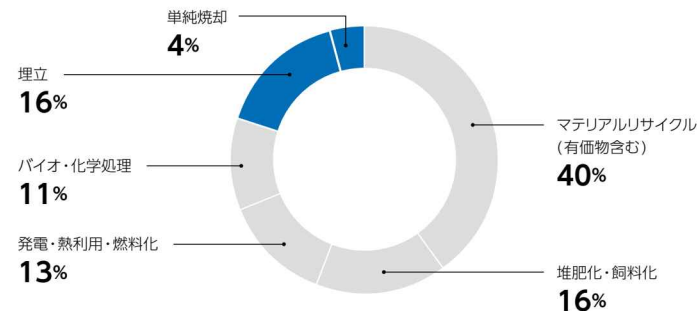
## ■単純焼却・埋立量目標



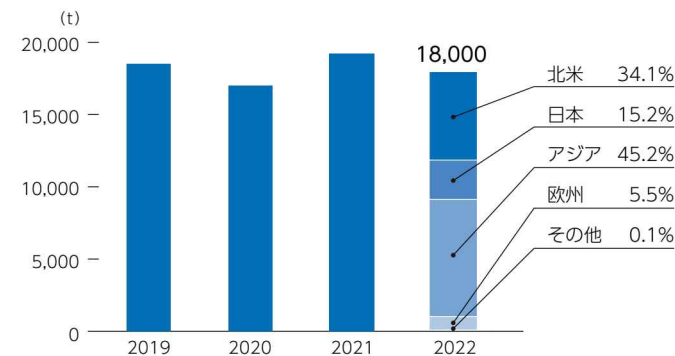
## ゼロウェイストに向けた取り組み

2022年度のグローバル排出量は、92,900トン、単純焼却・埋立量は18,000トンとなりました。大塚グループでは、サーキュラーエコノミーにおける2028年目標として単純焼却・埋立量を2019年比で50%削減するため、国内外のグループ各社と協働し廃棄物の削減に取り組んでいます。

### ■廃棄物排出量



### ■廃棄物単純焼却・埋立量



目次	編集方針	会社概要	トップメッセージ	方針・マネジメント	カーボンニュートラル	<b>サーキュラーエコノミー</b>	ウォーターニュートラル	生物多様性	化学物質管理	サプライチェーン	エンゲージメント	データ集・第三者検証
----	------	------	----------	-----------	------------	--------------------	-------------	-------	--------	----------	----------	------------

## 大塚グループ プラスチックステートメント

### 基本的な考え方

大塚グループが使用しているプラスチック製容器包装等のほとんどを飲料用PETボトルが占めているため、PETボトルの資源循環を推進することが化石燃料への依存を軽減し、地球環境の保全に貢献すると考えております。大塚グループはその原料にリサイクル原料や植物由来原料を使用することによって、グローバルにおいて持続可能なPET原料の割合を2030年までに100%、2050年までに消費者商品の全製品を対象に化石資源由来原料の使用をゼロにすることを目指します。

### プラスチックビジョン2050

「消費者商品の全製品を対象に持続可能な社会に対応した容器包装の使用を目指します。」

- ・化石資源由来プラスチックゼロ
- ・植物由来原料・リサイクル原料・生分解性原料の使用促進
- ・リユース容器の使用促進

### 2030年目標

- ・PETボトルにおけるリサイクル原料と植物由来原料の使用を促進し、2030年までにリサイクル原料および植物由来原料の使用割合をグローバルで100%にします。
- ・飲料容器として新たな代替素材（紙製容器など）の採用と、既存の缶容器の使用増加を目指します。
- ・飲料容器の再利用モデルとして、循環型販売モデルによるリユース容器の採用や既存のパウダータイプ製品等のマイボトル・スクイズボトルへの活用を継続・促進していきます。
- ・飲料容器のリサイクル化と並行して、代替素材容器への活用を推進します。

PETボトルの資源循環を推進するためには、使用済PETボトルを再びPETボトルの原料として利用する必要があります。大塚グループでは、グローバルで使用済PETボトルを適正に回収し再利用する取り組みを、多様なステークホルダーと協働して推進していきます。

2022年7月改定

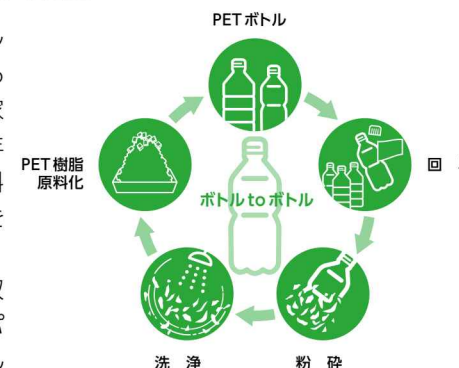
プラスチック全般に関して、環境負荷低減に向けた取り組みを迅速に進めることで、プラスチックの持続可能な使用および資源の循環にむけて邁進してまいります。具体的なアクションとしては、「飲料容器のPETボトルを対象としたアクションプランの策定」「リサイクル原料と植物由来原料の使用」「代替素材容器の検討」等を推進していく予定です。

## 持続可能な社会に対応した容器包装の使用への取り組み

### PETボトル水平リサイクル「ボトルtoボトル」の推進

「ボトルtoボトル」とは、使い終わったPETボトルを別の商品ではなく、再び新しいPETボトルにすることで、資源を繰り返し循環する仕組みです。大塚グループでは、「ボトルtoボトル」を推進し、2030年までにすべてのPETボトルにおけるリサイクル原料および植物由来原料の割合を100%にすることを目指しています。

大塚製薬では、2022年11月、PETボトルの回収から製造、販売までを、アルテック(株)、(株)ジャパンパワーボトラーズと包括的な連携協定を締結しました。また2023年2月には、徳島県鳴門市、豊田通商(株)と資源循環のための連携協定を締結しました。今後も行政、自治体、ビジネスパートナーとの協働・連携によるシナジー効果を発揮し、循環型社会の実現に向けて取り組んでいきます。



### PETボトルの資源循環

大塚グループではプラスチック容器包装の軽量化や、ラベルレス製品の販売など、これまでプラスチック使用量の削減に取り組んできました。国内では、リサイクルPET樹脂を利用したPETボトルを「ポカリスエット」「ポカリスエット イオンウォーター」「アミノバリュー」「クリスタルガイザー」などに展開しています。海外では、インドネシアのPTアメルタインダ大塚がリサイクルPET樹脂を30%利用したPETボトルの「ポカリスエット」を2022年8月に販売開始しました。



目次	編集方針	会社概要	トップメッセージ	方針・マネジメント	カーボンニュートラル	<b>サーキュラーエコノミー</b>	ウォーターニュートラル	生物多様性	化学物質管理	サプライチェーン	エンゲージメント	データ集・第三者検証
----	------	------	----------	-----------	------------	--------------------	-------------	-------	--------	----------	----------	------------

## リユースを通じた資源循環への取り組み

### ポカリスエット 循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」で販売開始

リユースとは、一度利用した製品をそのままの形で、何度も繰り返し使うことで、限りある資源を有効利用し、環境への負荷を減らす取り組みです。大塚製薬では再利用モデルに適した強度や品質基準をクリアする容器を開発し、2022年7月から、「ポカリスエット リターナブル瓶 250ml」を、循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」を利用して販売しています。大塚グループはさまざまなアプローチやチャレンジを続け、グループ全体で循環型社会の実現に向け取り組んでいきます。

大塚製薬では、繰り返し使うことのできるリターナブル瓶の資源循環への取り組みをポカリスエットのサステナビリティサイトにて紹介しています。



ポカリスエットのサステナビリティ

スカフィンのうた

これは「あの子」と「瓶くん」の物語。いつもラップで遊ぶあの子は、ある日ポカリスエットの瓶くんと出会う。太陽に向けるとキラキラして地球が回り始める瓶くんは、少し変わった友達になりました。でもある日、夢に出てきた長老ボトルに教えられ、あの子は、瓶くんがここにはいけないことに気が付きます...

「スカフィン」とは、瓶が繰り返し使用されることで、刷りきれっていく壁のこと。動画では長老ボトルの胸に刺さっています。リターナブル瓶が繰り返し使われるためには、あの子のように瓶を返却するという、ひと手間が必要なんです。誰かが返却してくれた証「スカフィン」を知りながら、地球をめぐるボトルの物語。楽しんでもらえたらうれしいです。

演出：©GRIN  
アニメーション：土屋南晃  
美術：中村隆樹

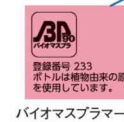
スカフィンのうた

<https://pocarisweat.jp/products/sustainability/>

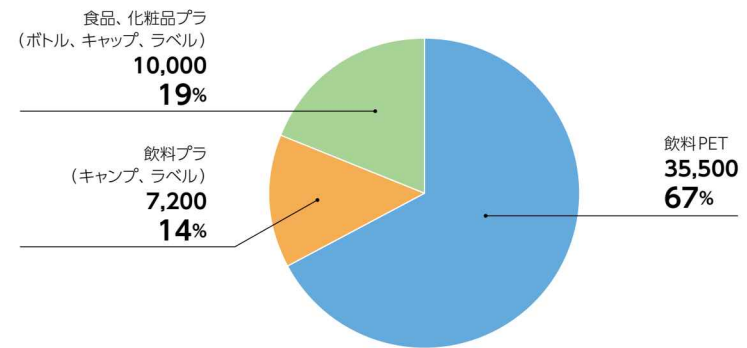


## 医薬品における容器包装の取り組み

大塚グループでは医薬品においても包装材の薄肉化、個装箱の小型化、紙製容器の再生紙利用など、環境に配慮した包装資材の開発と導入に努めています。プラスチック容器についても植物由来原料のバイオマスプラスチックを採用した製品の展開を開始しています。



### ■ 2022年消費者向け製品 容器包装プラスチック使用量\* (t/年)



\* 16社

国内 4 社：大塚製薬、大塚製薬工場、大鵬薬品、大塚食品

海外12社：クリスタルガイザーウォーターカンパニー、ニュートリションエッセンテ(イベリア含む)、ファーマバイト、リッジヴィンヤーズ、インターファーマプラハ、PTアメルタインダ大塚、大塚慎昌(広東)飲料、韓国大塚製薬、フードステイト、天津大塚飲料、ディアフーズ、上海大塚食品